



The 94th Annual Meeting of the Japanese Society for Tuberculosis

第 94 回 日本結核病学会総会

ランチョンセミナー 7

潜在性結核感染症の診断、 IGRA の使い方と解釈

座長

藤田 明 先生

公益財団法人 東京都保健医療公社
多摩南部地域病院

演者

猪狩 英俊 先生

千葉大学医学部附属病院
感染制御部・感染症内科

日時

2019年 **6月8日** (土)
12:30 ~ 13:20

会場

第4会場
(ホテル日航大分
オアシスタワー 5F 孔雀 B)

ランチョンセミナーは整理券制となります。

配布場所

iichiko 総合文化センター
(2F ロビー)

配布日時

6月8日 (土) 7:20 ~ 11:00

※ セミナー開始後、10分を過ぎますと整理券は無効となります。

潜在性結核感染症の診断、 IGRA の使い方と解釈

演者

猪狩 英俊 先生 千葉大学医学部附属病院 感染制御部・感染症内科

日本の結核罹患率も 10 万人対 13.3 (2017) まで低下してきました。このような中で、潜在性結核感染症 (LTBI) の診断と治療は、たいへん重要な戦略になってきました。「なぜ？」限られた資源を効率的につかって、おおくの成果を期待するのは自然な考え方です。「結核といえば X 線」しかし、結核罹患率がここまで低下すると、画一的に X 線を撮っても、その効果を限定されてしまいます。

結核を発症するリスクが高い人がいます。移植、透析、免疫抑制宿主、結核患者と接触した人などは LTBI の検査診断の候補です。また、基礎疾患によっては結核を発病すると十分な治療効果があげられない人もいます。LTBI の診断と治療は、このようなリスクに焦点をあてた結核対策です。

インターフェロン γ 遊離試験は、LTBI の診断に寄与するきわめて有用な検査です。そのためには、検査手順を遵守し、正しく解釈することが必要です。そして、適切な対象者を選択することも大事になります。

本セミナーでは、LTBI の診断と IGRA の使い方・解釈について改めて紹介します。

Access

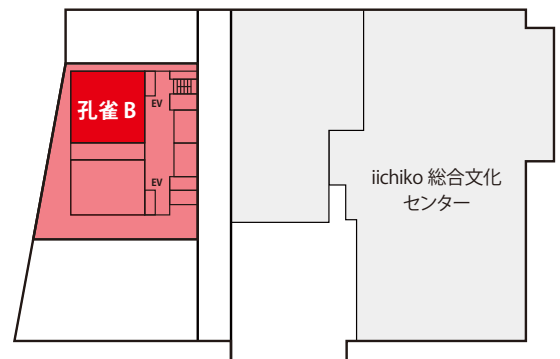
ホテル日航大分 オアシスタワー

〒 870-0029 大分県大分市高砂町 2-48

Floor
Map

第 4 会場

ホテル日航大分 オアシスタワー 5F 孔雀 B



OASIS ひろば 21

JR 線 | ・大分駅より徒歩 約 10 分 (府内中央口 1 番ホーム出口)
・大分駅よりタクシーで約 2・3 分 (道路状況によって変動します)

自動車 | ・九州横断自動車道大分 IC から市街地方面へ約 7 分
大分空港から | ・空港特急バス「エアライナー」 大分駅まで約 68 分